

基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る繰り返し指導

●基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導(ドリル学習等)の現状

- 本県の多くの小・中学校では、児童生徒の実態に基づき、基礎的・基本的な知識・技能の定着を繰り返し指導を行っています。
- 具体的には、児童生徒の実態に基づき、「書く力」、「読む力」、「聞く力」、「計算する力」等、各教科の基礎的・基本的な内容に重点化を図り、確実な定着のために、始業前の朝の時間や放課後等の時間を活用して実施しています。

- 本県では、小学校では9割、中学校では8割を超える学校が基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導に取り組んでいます。
- 実施内容は、各学校の児童生徒の実態に応じて選択されています。
- 実施時期としては、朝の時間や放課後の時間を活用するなどして継続的に取り組んでいます。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導の状況

校種	指導の実施	実施時期		
		朝の時間	放課後	その他
小学校	95.0%	81.9%	14.6%	27.5%
中学校	83.9%	52.6%	62.0%	13.3%

(平成22年度福岡県教育課程実施状況調査)

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導の事例 (ふくおか学カアップ推進事業取組事例集から)

小学校での取組事例 ～福智町教育委員会の事例～

ねらい

- ・速読を行うことにより、読解力を高める基礎となる「すらすら読み」ができるようにする。

取組の実際

- ・朝学習の時間を設定し、年間指導計画を立て計画的・継続的に実施する。
- ・職員が共通理解の上で実施できるよう、職員研修で、速読・音声計算の研修を実施する。

〈中学年・1学期の朝学習年間指導計画例〉

月	3年		4年	
	速読	音声計算	速読	音声計算
4	・きつつきの商売	・かもめ九九 ・おに 12 (余りのないわり算)	・白いぼうし ・大きな力を出す	・おに 12 (余りのないわり算)
5				
6	・ありの行列	・おに 12 (余りのないわり算)	・一つの花 ・動いて、考えて、また動く	・おに 3 (余りのあるわり算)
7	・旗をかつとばせ			

取組の成果

- ・繰り返し指導により、速読の力を向上させることができ、学力の向上につながっていった。



〈中学年・速読の目標文字数と成果〉

	3年生	4年生
目標文字数	240字	300字
2学期	242字	236字
3学期	318字	294字

(速読:1分間に読んだ文字数)

中学校での取組事例 ～鞍手町教育委員会の事例～

ねらい

- ・各学年の学習内容や基礎学力の定着を図る。

取組の実際

《スキルアップタイム》

- ・金曜日6校時の設定(年間20時間程度)
- ・数学、英語の基礎的内容を重点的に扱う。
- ・50分の前半を数学、後半を英語で、ドリル学習。
- ・全教師で取り組む。
- ・各学期にチェックテストを行い、正解が80%に達していない生徒には、個別の指導を行い、再テストを実施する。
- ・定期的に学力向上委員会を実施し、スキルアップの状況分析と改善を図る。

《帰りの学習》

- ・清掃終了5分後に開始し、毎日15分間実施する。
- ・国語、数学、社会、理科の5教科で実施する。
- ・現在学習している教科の内容を行う。
- ・1教科1～2週間をひとつのスパンとして実施し、帰りの学習の時間に小テストをする。
- ・学力向上委員会、各学年、各教科が連絡を密に行い実施する。

取組の成果

- ・決まった時間の継続的な取組により、生徒たちが落ち着いて取り組む態度が見られるようになった。
- ・継続的・繰り返しの指導により、基礎的・基本的な知識が身に付き、学力が向上した生徒が増えてきている。

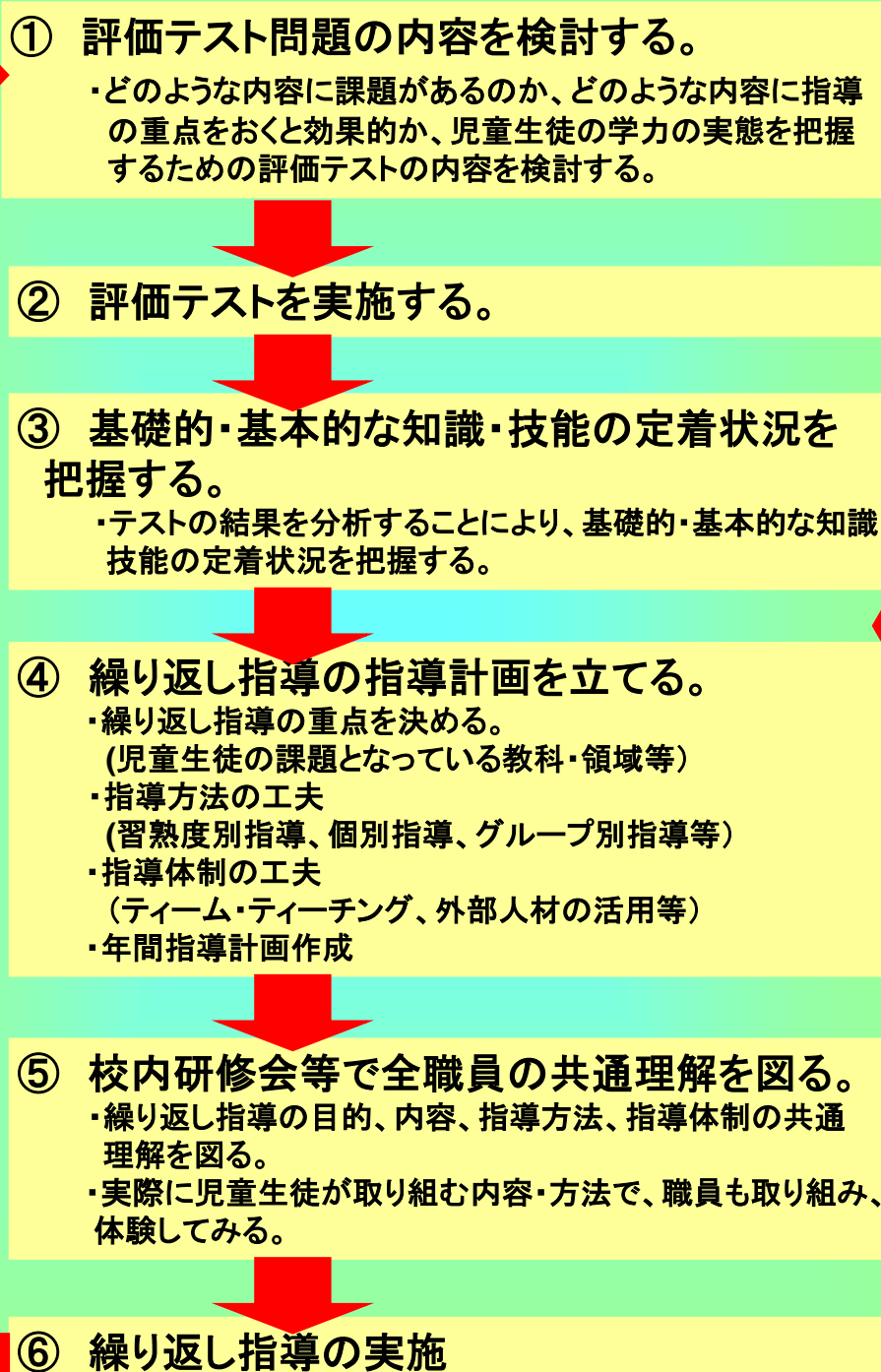
繰り返し指導の効果的な進め方

●基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導の効果的な進め方

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導を効果的に進めていくためには、校内の学力向上推進組織を中心に、取組の検証改善サイクル(計画→実施→検証→改善)を確立していくことが必要です。
- 学力向上推進組織が中心となり、職員の共通理解のもとに、計画的・継続的に進めていくことが大切です。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る繰り返し指導実施までの流れの例
(ふくおか学力アップ推進事業取組事例集から)

- このサイクルは、1年間という長期の期間だけでなく、学期単位などの短期のサイクルで確立していくことにより、実態に応じた指導の充実を図ることができます。



◇評価テストの結果分析
◇繰り返し指導の実施状況の把握・支援等
◇繰り返し指導の計画立案

学力向上推進組織